

学校における身近にスポーツを楽しめる環境の充実について

1. 子どもの体力向上の取組について

現状
と
課題

- 全国体力・運動能力等調査において、小学校では体力合計点が全国平均を下回っている。
- 平日の運動時間が全国平均に比べて少ない。(放課後の時間が特に少ない。)
- 運動の好きな子と嫌いな子の運動の二極化がみられる。

(1) 体育科・保健体育科の授業の充実

①授業協力者派遣

- ◇体育科の指導の充実を図る。
- ・体育科の専門的な指導を行う人材を派遣。

小学校

②トップアスリート派遣

- ◇子どもに、選手への憧れを抱かせるとともに、運動やスポーツへの関心を持たせる。
- ・派遣校数 5校(募集)

小・中・高

(2) 教員の資質向上・指導力強化

①体育授業力アップ研修会

- ◇体育科・保健体育科の授業力の向上を図る。
- ・内 容 講演、事例発表 情報交換会

小・中・高

②体育授業研究

- ◇研究指定校による授業研究を行う。
- ・小中高校(各1校または団体)を研究指定校とする。
- ◇体育授業力向上委員会
- ・小、中、高校の研究実践の交流等から円滑な接続を図る。

小・中・高

③体育・保健体育指導力向上県内研修 (7領域)

幼・小・中・高

④授業実践交流(県内4ブロック)

小学校

⑤学校体育武道実技講習会(柔道・剣道)

中・高

⑥体育的活動等における事故防止研修会

小・中・高

(3) 運動機会(時間・内容)の充実

①新体力テスト

- ◇小・中・高等学校の全学年で実施し、各校で結果分析を行い、課題に向けた取り組みを行う。小・中学校については、認定証・記録証を配布する。

小・中・高

②健やかタイム

- ◇各小学校に「子どもの体力向上委員会」を設置し、「子供の体力向上プラン」に基づき、「10分間運動」の実施等、活動内容、実施時間を工夫し、学校の実情に応じた体力向上策を充実させる。

小学校

③チャレンジランキング

- ◇1年を2期に分け、エントリーした個人またはチームが記録を競い、各学年上位6位までを表彰する。今年度Ⅰ期は、全員リレーでフルマラソンの記録に挑戦する「元気な湖っ子ランニング・チャレンジ」を実施する。

小学校

事業の
効果

- ◎運動好きの子どもの育成
運動することの楽しさや喜びを感じ、運動(遊び)に興味関心を持つ。

- ◎運動の日常化・習慣化
休み時間、放課後、家庭・地域で運動(遊び)をする。

- ◇体力の向上
◇生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成

2. 運動部活動の充実について

(1) 現状と課題

- 生徒指導や保護者対応等の業務が増える中、教員の部活動指導業務が負担となっている。
- 生徒や保護者から部活動の安全性、さらに技術指導に対する高度化専門化が求められているが、顧問は、科学的・専門的な指導方法を学ぶ機会が少ない。
- 部活動加入率は、高等学校では増加しているが、中学校では減少傾向である。

【運動部活動加入率の推移】(%)

校種	県/全国	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
中学校	滋賀県	71.8	71.7	71.6	70.8	70.8	71.0	71.2	68.9
	全国	64.9	64.4	64.1	64.5	64.3	63.6	63.2	63.2
高等学校	滋賀県	51.6	49.0	48.7	49.2	51.3	52.4	53.4	54.6
	全国	40.1	41.9	41.5	42.1	42.5	43.8	44.2	43.8

(2) 取組の内容

○運動部活動スキルアップ事業

県立学校及び市町立中学校の運動部活動指導者（顧問）を対象に、年間2回の研修会を開催し、科学的で適切な運動部活動の指導者を育成する。

また、生徒の自主性や主体性を引き出すとともに、体罰防止や安全面について指導力の向上を図る。

○運動部活動指導人材活用支援事業

専門的スキルや運動部活動の指導経験を持つ外部指導者を学校に派遣することにより運動部活動を支援する。

- ・派遣者 地域スポーツ指導者・退職教員等
- ・派遣者数 中学校・高等学校 計30名

【外部指導者全体数】 H28年度 中学校186名 高等学校50名

○部活動指導員導入の検討

学校職員として位置付けられた「部活動指導員」の導入に向けた検討を行う。

(3) 取組の効果

- 合理的な部活動指導を学ぶことによる事故や体罰等の不適切な指導の防止。
- 顧問の教員の不安や負担の軽減と指導力の向上。
- 外部指導者と学校の連携体制の構築。
- 専門的な技術指導による生徒の意欲・技能の向上。

運動部活動の活性化

- ・生徒の人格形成
- ・自己実現の達成